

試験研究成果普及情報

部門	麦及び雑穀	対象	普及
課題名： カンショ「総の秋」ウイルスフリー優良系統の育成			
[要約] 諸梗（成り首）が短く、障害等の発生が少ない「総の秋」のウイルスフリー優良系統を育成した。			
キーワード（専門区分） 育種 （研究対象）いも類 - サツマイモ （フリーキーワード）カンショ、総の秋、諸梗、優良系統			
実施機関名（主 査） 農業総合研究センター育種研究所畑作物育種研究室 （協力機関） （実施期間） 1998年度～2003年度			

[目的及び背景]

1994年に千葉県で育成されたカンショ「総の秋」は表皮色が極めて濃く、食味が良好なことから、「紅赤」の後継品種として県内で栽培されている。しかし、栽培環境や植付け時期によっては諸梗（成り首）が長くなる傾向が見られ、機械収穫時に掘り残しが生じるといった問題が発生した。そこで、現地栽培圃場から諸梗の短い株を収集し、ウイルスフリー化した後、優良培養系統を選抜する。さらに、ウイルスフリー苗配付用の基核株を育成する。

[成果内容]

- 1．現地圃場から収集した優良株をもとに、ウイルスフリーの41培養系統を作出し、諸梗が短く、障害等の発生が少ないNo. 7 及びNo. 6（予備）の2系統を育成した。
- 2．No. 7 の基本的な形質は現在の基核株と同様であるが、基核株に比べ、次のような特徴をもっている。
 - (1) 諸梗の平均長が短く、20cm以上の割合も低い。また、年度及び植付け時期によるばらつきが小さい（図1、図2）。
 - (2) 曲がり等の障害の発生が少ない（図3）。
 - (3) 収量はa当たり300kg程度で、ほぼ同程度である（図4）。

[留意事項]

No. 7 は、2005年度からJA全農にポット苗を配付する予定である。

[普及対象地域]

県下カンショ栽培地帯

[行政上の措置]

[普及状況]

[成果の概要]

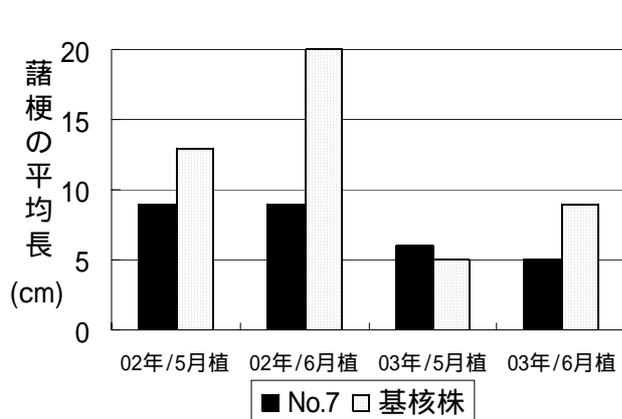


図1 選抜系統いもの諸梗の平均長

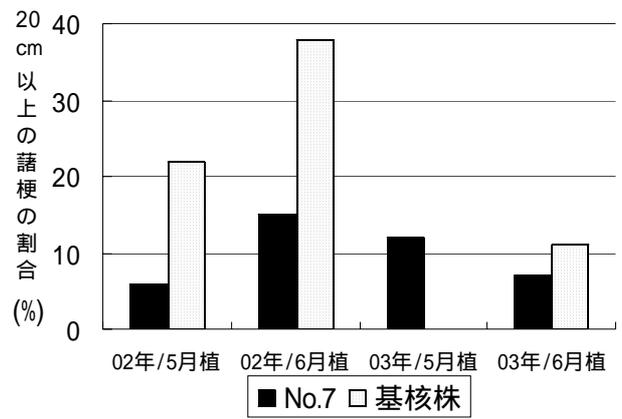


図2 選抜系統いもの20cm以上の諸梗の割合

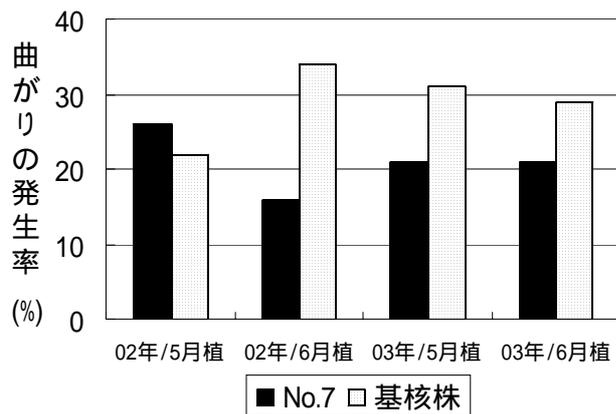


図3 選抜系統いもの曲がりの発生率

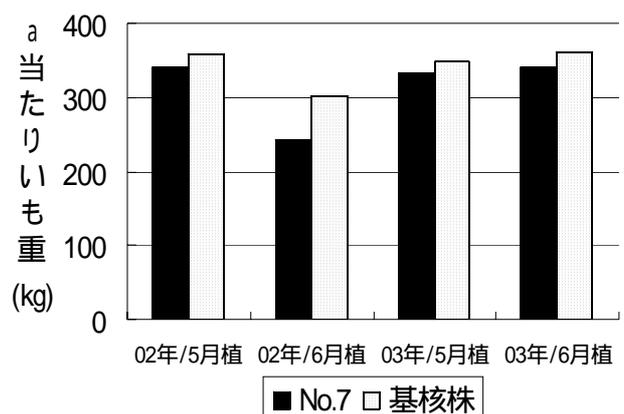


図4 選抜系統のa当たりいも重

[発表及び関連文献]

平成10～12年度試験成績書 千葉県原種農場

平成13～15年度育種試験成績書 千葉県農業総合研究センター育種研究所

平成16年度試験研究成果発表会 (野菜 部門)